

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
ななかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鎚木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

公共乗合タクシー創設の提言--- 南木 草介 手話言語条例----- 大川 義郎  
春日大社式年造替----- 北脇 一枝 与太郎の短歌----- 藤田 恭

## 大江の「幸若舞」

鵜澤 和良



「人間五十年、化天の中を比ぶれば、夢幻の如くなり…」織田信長が桶狭間の戦いの前に謡いながら舞ったとされていいますが、これは日本最古の舞楽ともいえる「幸若舞」の演目「敦盛」の一節です。

「幸若舞」は室町時代初期、越前の桃井直信（幼名・幸若丸）によって創始された語り物と呼ばれる古典芸能です。軍記物の曲目が多くなるに従い、武士道鼓吹の舞曲として、信長、秀吉をはじめ戦国時代の多くの武将の間で愛好され、大いに隆盛を極めました。

また幸若舞は、歌舞伎をはじめ、すべての芸能や文学に多大な影響を与え、日本芸能史の研究に貴重な舞楽として今も注目を浴びています。

しかし、徳川の中期より、時代の流れ、趣味の変化、能曲、俗歌が盛んになるに従い

次第に衰え、その発祥地の福井県越前町でも明治時代には後を絶つたと聞いています。ところが福岡県みやま市瀬高町大江に「大江のめえ（舞）」と呼ばれ、現在でも昔日の姿をそのまま伝えていきます。

天明7年に瀬高町大江に大頭流幸若舞が伝わり、長きにわたり継承され、現在に至っています。今では毎年1月20日五穀豊穡を祈って大江天満神社の舞殿で奉納され、昭和51年には国指定重要無形文化財に指定されています。

平成26年1月に奉納舞に参加する機会を得て、小雪降る中鑑賞してきました。現在に伝わる曲目は9曲ですが、当日は「浜出」「日本記」「扇の的（那須与一）」「夜討曾我（下）」「敦盛」「安宅（下）」の6曲が上演されました。奉納舞は4時間ほどかけて演じ

られました。初めの2曲は小学生、続いて青年、壮年の人たちが順に舞いました。初めて見る謡いと舞いの動きの素晴らしさに感動しました。

幸若舞は、どの曲目も、鼓方が後方に腰掛けて鼓を打ちながら囃し、正面に立烏帽子、素袍上下の太夫、その左右にシテ、ワキが控えます。各々右手に扇を持ち、両手を張り、袖口を折り、体は上半身をやや前方に、眼は先方を見つめて謡います。シテとワキは地謡を務め、太夫は謡いながら舞台を足踏み鳴らして前後左右に足を運び、頭は殆ど動かさずに力強く舞います。床を踏み鳴らした時の反響音は身が引き締まり、凜として、武士的気風が感じられます。

今回は、700年の伝統をもつ現存する幸若舞を鑑賞し、伝統文化の素晴らしさに直接触れ、感動し、改めて見識を深める旅となりました。

（参考文献：幸若舞保存会の資料）

（編集委員）

## 公共乗合タクシー 創設の提言

最初からペーパードライバーを決め込んでいたため、私自身は車がなくても不便は感じていないが、人間は一度手にした便利さを手放すことはできない。どこに行くにも車に頼ってしまうらしく、極端な例は、毎朝のゴミ捨てにも車で乗り付けたりしている。

一口に高齢者と言っても個人差が大きいのだが、高齢になれば多かれ少なかれ注意力が散漫になるのは避けられない。中には相当危なっかしい運転をしている人がいるのも現実。普段、通りを歩いている危ない目にあったり、はらはらさせられることは少なくない。とりわけ近年佐倉市はマイカーの増加が目につき、相応に交通事故も多い。

車の運転免許は、一定の年齢を定めて、原則として返納することにすべきだろうと思

う。マイカーにとって替わる移動手段として、小型の路線バスを増設するとか、公共乗合タクシーの増設を考えるとどうかと思う。利用できるタクシーの台数を増やしたり、行政の援助も得て、料金を格段に安くする。例えば、買い物タクシー、介護タクシー、生活支援タクシー、通院タクシーなど、いわば公共の乗合タクシーを設置し、電話で呼び出してすぐに来てもらうことができるようにする。それはまた雇用の創設にもつながるだろうと思う。

危うい運転で人身事故を起こし、加害者・被害者双方にとって取り返しのつかなくなるケースを減らすためにも、ぜひこのような公共乗合タクシーの創設と仕組みを考えてほしいものだと思う。

(大崎台 南木 草介)

## 手話言語条例

4月の統一地方選挙が終わった翌日の夕刊に「筆談ホステス訴え届く」の見出しが躍った。都内北区議会議員選挙で聴覚障害者31歳の女性がトップ当選、また兵庫県明石市議会議員選挙で、聴覚障害者55歳の女性が当選したことが報じられていた。記事によると、北区議の女性の選挙演説は弁士に任せ、自分は身ぶり手ぶりで思いを訴えて戦ったとある。

今から50年前の9月、東京上野の寿司店で聴覚障害者2人が手話で会話食事中に、健常者の客との間で喧嘩となり、止めに入った店主が聴覚障害者に投げ倒されて頭部を強打し、その後死亡したという事件があった。争いの原因は、聴覚障害者が手話で会話中に他の客から変な目で見られたため、これを抗議したことから喧嘩となり、裁判結果は聴

覚障害者2人に有罪が言渡された。当時は口話による方法が重要視され、世間で手話を理解する人は極めて少なく、手話による会話は好奇心な目を向けられていたため起こった悲しい事件である。裁判の過程で聴覚障害者に対する差別が論点として持ち上り、聴覚障害者運動史にも残る重要な事件といわれる。

2006年国連は「障害者権利条約」を採択し、「手話は言語である」と定義された。日本はその5年後、障害者基本法を改正し「言語は手話を含む」と明記した。手話は聴覚障害者の重要なコミュニケーションの手段として認知され、かつ歴史の上に立つ文化である。

今、全国で手話を「手話言語条例」として制定した自治体は、ここ1、2年で鳥取県その他17あるという。佐倉市にも手話言語条例の早期制定が望まれるところである。

(藤治台 大川 義郎)

## 春日大社式年造替

奈良公園を抜け、一の鳥居、二の鳥居をくぐり、石燈籠の参道を進むと楠の花の香りが清々しい。

千古の森の新緑の中、色鮮やかな朱色の春日大社が現れます。

古代より20年に一度、齋行される式年造替記念の国宝御本殿特別公開に行つて来ました。

朝は、まだ観光客もまばらで静寂のたたずまい。普段は不信心で暮らしていますが、あまりの神々しさに気持ちもピンと張り詰めたような気がしました。

こういう時だけの信心、神様もさぞや苦笑いをされていることでしょう。

特別拝観を終え、木立ちの中を散策。今年誕生した小鹿の公開は6月1日からとのこと。冬毛と夏毛の生え替わりの為少し汚れたような鹿達に

取り囲まれ泣き出す子供達、外国からの観光客、毎回来る度に変わらない光景です。

20年後の式年造替は見られないだろうと考えると、今さらながら日々を大切にしながらはと思えました。

観光客が増した公園をあとにし、奈良へ来たら立ち寄る「ならまち」へ。古い建物が立ち並ぶお土産屋の一角に古布物の小さなお店があり、今回もイメージ通りの掘り出し物を見つけ大喜び。身辺の片付けを始めているのにもかかわらず、気に入った物なので「さっそく神様のご利益か」と思いつつ、ためらうことなく買ってしまった。

何かを捨てなければ思いつながらも、いつまでも物欲は尽きないものだと、自分自身苦渋の思いです。

(ユーカリが丘 北脇 一枝)

## 与太郎の短歌

寒すずめ 庭に降り立ち

吾に来て

小首傾げて

何を尋ねん

風温み 蝶にあらずも

春を吸い

吾の目鼻は

花粉に酔いどれ

紅唇に ピアスを咬ませ

むらさきの

髪なびかせし

妖女に道あけ

スーパーで 妻は魚と

にらめっこ

決断つくまで

待つ身を忘れ

我が身には 金使うこと

減りもせぞ

洒落たハットを

買って悦に入り

少年は 尻の下まで

バッグ下げ

歩きにくそに

バンカラ主張

待ち時間 長いと喚く

強面は

美人ナースに

ハイと従い

足揃え 雀の歩きを

真似し児は

じきに疲れて

鳩の歩きに

歩道から 降りて老女に

道ゆずる

あの人は今日も

優しいだろか

暑夏去りて 寝心地良き夜の

快眠も

トイレを捜す

夢みて目が覚め

(鍋木町 藤田 恭)

## 8月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL: 043-485-1801 FAX: 043-485-1803

〒285-0025 佐倉市鐺木町 198-3

E-mail: chuo-public@city.sakura.lg.jp

URL: [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0\\_1.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html)

『なかま』は佐倉市民カレッジの学生と卒業生で構成される編集委員が編集し、市民カレッジ情報コースの卒業生が文字入力を行っています。

### さくら道

一休さんの名前は、師の華叟宗曇が古歌からとった「有漏路より 無漏路へ帰る一休雨降らば降れ 風吹かば吹け」に由来するといわれています。一休の『摩訶般若波羅蜜多心経解』によれば、漏とは煩惱をいう。有漏とは煩惱あり、無漏とは煩惱無しという心だそうです。煩惱のある世から煩惱のない世への間で一休みというところでしょうか。江

戸時代の『一休咄』では雨降らば降れ風吹かば吹けは、生死の道は、わずかの道のことなので、雨も風も厭うことはないと答えたそうです。一休は鴉の鳴き声に悟りを開いたといわれますが、大悟する前の修行に徹した時代と、酬恩庵での盲目の美女森侍者との生活など、風狂の人といわれ、奔放に行動した晩年。一休の実像は、スケールが大きく興味が尽きない人物です。

（岡本 治之）

### あとがき

私は今年の4月から佐倉国際交流基金が主催している英会話教室に参加している。英国女性ジェインさんが講師で、年配の男女が生徒、月に1回、1時間半の授業である。6月は英会話を始めた動機やその関わりを自由に発表した。何と驚くことに男性は5名全てが多かれ少なかれ認知症の予防を挙げていた。守備的でねくらの理由であるが、男

性である小生にはむしろいいらしく感じられた。これに反して女性の場合は海外旅行を楽しみたい、英語を勉強して、外国人と話したいなど、積極的で何とねあかな理由であるか、大いに感服した。昨年度の統計によると男性の平均寿命は80歳、世界4位であり、女性は86歳、世界1位である。女性が長寿で逞しい原因の一端を垣間見た気がした。

（藤橋 和夫）